



## 備えあれば憂いなし

### ～令和2年7月豪雨と7.18水害～

今月初めから九州地方を中心に大雨が続き、大きな被害が発生しました。まずは、亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方にお見舞いを申し上げます。

大雨による洪水や土砂災害は決して人ごとではありません。私たちの住む地域でもちょうど67年前、昭和28年7月18日に大きな水害が発生しました。私は有田川町（旧吉備町）の出身で、よく母から水害の話をお聞きされました。有田川上流の旧清水町で1時間に80 mm を越えるような大雨が降ったそうです。1時間に80 mm の雨とは「バケツをひっくり返した」という比喩が大げさでないほどの勢いだそうです。そして、その雨が有田川に集まり、約2時間後下流に押し寄せ、保田地域では星尾のあたりの堤防が決壊し辻堂や野の方に流れ込み、大きな被害が出ました。「高田から船で助けに行った」という普段では信じられないような状況でした。

私は、母の話の中の「1時間に80 mm のバケツをひっくり返したような大雨」という言葉が幼い頃から忘れられませんでした。もちろん今は当時よりも頑丈な堤防ができ、水量を調整するダムができていますので、「80 mm =水害」ではありません。けれども、7月6日には鹿児島県鹿屋市で1時間に109.5 mm の雨が降ったそうです。最近『100年に1度の大雨』とか『線状降水帯』というような言葉をニュースで耳にしたことがありませんか。このような状況が日本各地で毎年と言っていいほど起こっているのです。



私たちはどんなに頑張っても自然現象には太刀打ちできません。ただ、その災害から逃れる方法はあります。情報を正しく入手すること、水や食べ物、懐中電灯などを用意することなどいろいろ考えられます。また、早めに避難をしましょう。避難して何もなかったら…なんて考えず、何もなかったらそれでいいのです。最近テレビで「避難して何もなかったらそれは『空振りではなく素振りだ』」という言葉をお聞きしました。何もなかったらそれは素振り、つまり練習なんです。練習は大切。命を守る行動をとりましょう。

#### 防災クイズ～洪水編～

洪水で避難します、道路には水があふれています。正しいのはどちらでしょう。（正解と解説は裏面）

- 履き物は？  
A…長靴      B…運動靴
- 道を歩くときは？  
A…真ん中      B…端
- 道路が水浸しの時歩ける深さは？  
A…1 m      B…50cm

### 正解

1. B 運動靴
2. A 真ん中
3. B 50cm

### 解説

1. 長靴は中に水が入ると大変重く動きにくくなるうえに脱げやすくなります。運動靴のヒモをしっかり結んで履きましょう。
2. 道の端にはふたが流れてなくなった穴や溝がたくさんあるかもしれません。できるだけ道の真ん中を、慎重に歩きましょう。
3. 水の流れがほとんどない場合でも、50cmを超える水の中を歩くことはとても危険です。避難情報によく注意し、早めの避難を心がけましょう。状況によっては屋外に出ず、建物の2階以上に避難することも有効です。

※津波の場合は、大人でも15cmを超える高さで命を失う場合があります。水は透明ではなく、中に金属やガラスなどが含まれていて思わぬけがをすることがありますので、すみやかに津波の届かない高台や建物に避難しましょう。